

小5国語科 「3つの見届ける」

単元名 伝記を読んで、自分の生き方について考えよう「百年後のふるさとを守る」

単元の指導計画

第1次	第2次				第3次	
第1時 伝記を読んでリーフレットにまとめて紹介するという学習の見通しをもつ。 【読む カ】	第2時 「百年後のふるさとを守る」を読み、伝記の特徴と文章構成を確認する。 【読む ウ】	第3時 儀兵衛がしたこととその考え方をとらえてリーフレットに書く。 【読む ウ】	第4時 筆者が考える儀兵衛の業績の意味をとらえてリーフレットに書く。 【読む ウ】	第5時 筆者が考える儀兵衛の業績の意味に対して、自分が考えたことをリーフレットに書く。 【読む ウ】	第6、7時 「百年後のふるさとを守る」で学習したことを使って、選んだ伝記を紹介するリーフレットを書く。 【読む カ】	第8時 書き上げたリーフレットを読み合い、感想を伝え合う。 【読む オ】
言語活動：選んだ伝記（並行読書による）を紹介するリーフレットをつくる						

第4時

ねらい

百年先のふるさとのことを考えて備えること、自助の意識と共助の意識をもつことは、災害後の対応と災害から身を守ることに役立つという、筆者が考える儀兵衛の業績の意味をとらえることができる。（読むこと ウ）

学習活動

※リーフレットの筆者が考える儀兵衛の業績の意味を書くために本時の学習があることを確かめる。

1 儀兵衛の行ったことについて「学ばなければならないだろう」と筆者が言っていることは何かをつかむ。

リーフレットをつくるために、筆者が「学ばなければならないだろう」と言っていることをまとめよう。

2 筆者が考える儀兵衛の業績の意味を追究する。

- ・百年先のふるさとのことを考えて堤防を造ること、自助と共助の意識をもつことは、災害後の対応と災害から身を守ることに役立つ。
- ・自分たちの力で、互いに助け合いながら、自分たちが住むところを守るのだという意識である。

3 筆者が考える儀兵衛の業績の意味をまとめ、条件に応じてリーフレットに書く。

筆者は、先のふるさとのことを考えて「百年後にも役立つ堤防」を造ったこと、自分たちの力で、互いに助け合いながら、自分たちが住むところを守るという「自助の意識と共助の意識」をもつことが、災害後の対応と防災という観点から現代の真の再生に役立つということを学ばなければならないだろうと言っている。

4 自分の選んだ伝記から、人物の業績の意味の書かれているところを探して付箋を貼る。

※次時に自分の考えを書き込むことを予告する。

○実態を見届ける（見極める）

○既習の内容の定着を見届ける。

- ・目的に応じて、文章の重要な点を的確に押さえることができているか。
- ・分量や表現の仕方などに合わせてまとめることができているか。

○本時の位置（役割）を見極める。

- ・リーフレットを作成するという目的とともに、本時の学習内容を明らかにする。

○学習状況を見届ける

○根拠として取り上げている部分を見届ける。

- ・儀兵衛の行動の中から、今のわたしたちに「役立つ」と筆者が述べている部分に着目しているか。
- ・今のわたしたちに「役立つ」ことの中から、「自助の意識と共助の意識」の内容をそれぞれ書き出しているか。

○定着状況を見届ける

○自分の考えをもち、書くことができたかを見届ける。（10分程度）

- ・筆者が考える儀兵衛の業績の意味を文章中の表現を引用しながらリーフレットに書くように指導し、その内容を確認する。
- ・自分が選んだ伝記から人物の業績の意味を見つけているか確認をする。